

a 学校教育目標		学びに向かい、心豊かで、健やかな児童の育成 ～「かしこく」「やさしく」「たくましく」～		b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 「通ってよかった」「通わせてよかった」と誇りに思われる学校								
評価計画				自己評価				改善方針		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力 (かしこく)	授業力の向上	○対話を生み出す発問の検討 ○「児童同士が発言をつないでいる」、「視点に沿って振り返りを書いている」、「視点に沿って振り返りを書いている」等の視点による授業評価票を活用した授業改善 ○定期アンケート評価による成果と課題の把握、分析、改善策検討	○授業評価票「児童同士が発言をつないでいる」、「視点に沿って振り返りを書いている」、「視点に沿って振り返りを書いている」の項目の平均ポイント3.6(4段階評価)以上の職員の割合 ○児童アンケートの肯定的評価の割合	8月80% 12月85%	90.0%	112.5%	A	・授業評価票「児童同士が発言をつないでいる」、「視点に沿って振り返りを書いている」の指標3.6に対して、項目の平均は90%だった。「児童同士が発言をつないでいる」の項目の平均は3.2、「視点に沿って振り返りを書いている」の項目の平均も3.2であった。各授業者が児童同士の発言をつなぐようファシリテートすることを意識したり、振り返りを書かせたりしたが、授業参観者の評価としては4段階中3の評価が多く、目標値を達成することができなかった。この点から、参観者が明確に視点をもち厳しく評価できるようになってきたと捉えることもできる。 ・児童アンケートの肯定的評価の割合については、90%であった。児童は、友達を考えにつなげて発言したり、視点に沿って振り返りを書いたりすることができており、相手とのやりとりや、振り返りを書くことが当たり前にできるようになってきたと考えられる。	・職員からは、これまでの研究授業を通して学んだことを生かして授業づくりを行っている姿が見られるため、今後も研究授業の回数を重ね、日々の授業改善を行うことを通じて目標値の達成を目指す。今後も、研究授業での学びを次の授業者につなぐことができるよう、研究授業のまとめの作成・交流を行う。 ・児童に対しては、やりとりができてきていること、振り返りを書いていることについて肯定的な評価を行ったり、R80の書き方を指導をしたりすることを通して、「できた」という実感をもたせていくようにする。	○			・児童の学びたいという意欲を向上させる授業づくりや学習活動に今後も継続してほしい。 ・子ども達は授業に真面目に取り組んでいる。今後も日々の学習を大切に積み上げて学力向上に取り組んでほしい。 ・児童の考えを形成していくことが授業の中で大切である。「発言をつなぐ」ことの意義、何のためにつなぐのかを再度教職員同士で確認する等、意識していくことで改善につながるのではないかと考える。	
	基礎学力の定着	○学力向上に向けた計画的、効果的な取組の実施及び個への支援手立てと授業改善策の検討 ○学力調査分析事業の活用 ○家庭学習をやり切らせる指導とICT活用による家庭学習の実施	○算数科・国語科単元末テスト通過率	87%	85.0%	98.0%	B	・算数科・国語科の単元末テストの平均は85.0%であり、目標値を達成することができなかった。算数は知識が88.3%、思考・判断・表現が81.4%、国語科は、知識が81.7%、思考・判断・表現が88.0%であり、それぞれの教科で観点によって点数の差が大きいことが分かる。	・算数科の思考力・判断力・表現力、国語科の知識の課題が大きいため、夏季休業中に行った全国学力調査とNRTの結果分析を基にした授業改善に取り組み、課題の克服に努めていく。各学年で授業改善を図る単元を決めているため、担任者会等で取組の状況について確認し、学力の向上につながるようにする。また、朝の帯タイム「白滝タイム」で9月から取り組んでるアシストシートを継続し、各学年の課題部分の改善を図ることができるようにしていく。	○				
豊かな心 (優しく)	ふるさとを愛する心 情の育成	○生活科、総合的な学習の時間を中心とした地域人材・地域教材を活用した授業を推進し、地域への愛着・感謝の心を育てる。	○学校アンケート「小泉の地域の役に立つ行動がしたい」肯定的評価4の児童の割合	85%	91.0%	107.0%	B	・アンケート「小泉の地域が好きですか」に対して、肯定的に評価している児童は91%であった。 ・これまでに、1・2年生が民生委員の方々や保護者の協力のもと、「さつまいもの苗植え」を行ったり、生活科の中で地域の方々や保護者の協力のもと田植え体験等を行っている。5年生は、総合的な学習の中で「里芋の観察等の農業体験」で地域の方を講師として学習活動を行っている。6年生は、白滝園を訪問し、小泉太鼓の演奏を披露している。9月からは地域の方が子ども達に読み語りをしてくださり、読書活動を推進している。地域の方々や保護者の方々の力が支えとなった学習活動が成果につながっていると考える。	・今後も、「いもほり」や「稲刈り体験」、「農業体験」等地域人材・地域教材を活用した学習活動を積み重ねていく。体験を通して、小泉の地域の一員としてできることを自分事として考えさせたり、表現する場(行動する場)を設定したりして、地域への愛着・感謝の心を育て、自己有用感の向上にもつなげていく。また、「小泉の地域が好きではない」と捉えている児童の思いにも寄り添いながら取組をすすめている。	○			・小泉小だからこそその資源(人、環境等)を活用した学習活動が展開されている。この取組を継続してほしい。 ・児童一人一人の感受性には違いがあるとは思いますが、体験を通して愛着心や感謝の心を育てようとしていることが分かる。今後も丁寧に取り組んでほしい。	
	児童の自己有用感 チャレンジする心の 育成	○「小泉小5つの宝」(①ほかほか言葉②時間を守る③トイレのスリッパ揃え④気持ちのよいあいさつ⑤静かな廊下歩行)の児童による取組推進及び改善実施 ○ハイパーQUや定期アンケートの評価による成果と課題把握、分析、改善策検討	○「小泉小5つの宝」のうち重点強化週間振り返りにおける児童の肯定的評価 ○ハイパーQU(6月中旬、1月下旬)分析による学級生活満足群の割合で評価	85% 70%	94% 62%	110% 88%	B	・重点目標①「気持ちのよいあいさつ」に関する児童アンケートの肯定的評価は94%であった。児童会を中心としたあいさつ推進活動や学級担任を中心に教員から児童へ毎日指導を行ってきた結果と考えられる。②「時間を守る」については、まだ児童を中心とした活動を行っていない。今後、強化週間を設ける予定である。実態としては、5分休憩終了のチャイムに遅れて教室へ帰る児童が各学級に少数あり、推進活動や日々の指導を通じて改善していく必要がある。 ・ハイパーQUにおける学級生活満足群の割合は62%と、目標数値に届かなかった。各学級に2～3名ずつ不満足群に位置する児童がいる。不安が強い児童や集団の中で思いを表現することが苦手な児童がいるためだと考えられる。	・重点目標①「気持ちのよいあいさつ」は、指導が不足してくると、児童の声が小さくなり、あいさつができなくなったりすることあることから、これからは定期的な推進活動と、日々の呼びかけを行っていく。②「時間を守る」については、2学期に計画されている推進活動や、学級ごとに時間を守ることの大切さの指導を行ったり、時間を守ることができない児童へ個別の指導を行ったりするなど、継続的な指導・指導を行っていく。 ・ハイパーQUにおける学級生活満足群の割合を高める方策としては、各学級の不満足群に位置する児童への個別支援を学校全体として行っていくよう連携を行う。また、SSTや話し合い活動等に引き続き取り組み、児童が安心して生活できる学級集団の育成を目指す。	○			・地域の方々や学校とが良好な関係を築いていることが伝わってくる。 ・「不満足群」の児童への働きかけをしっかりと行うことが大切であると考える。丁寧に取り組んでほしい。	
健やかな体	運動意欲の向上	○アンケートの結果分析による課題分析をし、取組内容の決定と実施 ○体育科における運動遊びの実施 ○休憩時間等を活用した学級遊びの取組実施	○運動やスポーツが好きな児童の割合	7月 85% 12月 90%	94.0%	110.6%	A	・「運動やスポーツをすることが好きですか」の肯定的評価は94%で、前年度末のアンケート結果から数値が2%向上した。今年度も、毎週実施しているがんばり朝会の中で、月に一度、保健体育委員会が企画した運動遊びを行う取組を行った。異学年の児童と一緒に体を動かす中で、児童が運動することの楽しさを味わうことができたのではないかと考えられる。 ・「休み時間を使った学級遊び」について年度当初周知したが、具体的な取組として計画や実施を促すことは、まだできていない。	・今後もがんばり朝会で運動遊びの取組を継続していき、児童が様々な運動を経験し、楽しみながら体を動かすことができる機会を確保していく。 ・体力テストにおける全校の課題「柔軟性」「腹筋」の力を高めるために、がんばり朝会の種目を2学期から変更した。夏季休業中に、職員対象の運動遊び実技研修を行った。課題を克服できるように引き続き指導を行っている。また、児童が楽しんで体力を高められる運動遊び等を考えたり実践したりする必要がある。 ・「休み時間を使った学級遊び」を、各学級の担任に促したり、保健体育委員会と企画を考えたりして、学期に1回以上実施できるようにしていく。	○			・体を動かすことの喜びを感じる場を今後も確保してほしい。 ・異学年との交流は連帯感を養ううえでとても大切な学びだと思ふ。 ・児童の発案で取組がすすめられているのがよい。	
	体をつくる	○給食を食べ切る分量の自己決定と完食しようと努力する児童の育成 ○食に対する感謝の気持ちを醸成する指導、取組実施	○学校アンケート「給食は自分で決めた分量を食べていますか」の肯定的評価	90%	94.0%	104.4%	A	・「給食は自分で決めた量を食べていますか」の肯定的評価は94%だった。6月に、保健体育委員会企画の「完食スタンブラー」(1)と、meetによる「ばくばく給食ニュース」(スライドを使った放送)を行い、給食を作ったり片付けたりする様子を動画で見たり、食材の栄養を伝えたりする事により、苦手なものにチャレンジした児童は95.9%、完食の意識が高まった児童は91.8%、感謝の気持ちが高まった児童は97.3%だった。児童自らがアイデアを出して、スライド作りをし、取り組むことで、より関心や意欲が高まることにつながっているのではないかと考えられる。	・11月に2回目の取組を予定しているが、低学年にも分かる内容になるようスライド作りや、聞く人に伝わる表現を工夫する。また、スライド放送の操作がうまくできないことがあったため、事前の練習を十分行う。 ・取組時は完食しようと頑張る姿が見られるが、普段の給食では、食べられる量を極端に少なくする姿も見られるため、年齢に必要な栄養量についても指導を行っていく。	○			・食育の取組は、自己決定力を向上させることにもつながる取組だと思ふ。継続してほしい。 ・一人一人に目標をもたせている点が良いと思う。	
信頼される学校	発信する	○学校便りの定期的な発行とPTAを活用した地域への配付 ○学年便りの発行	○保護者アンケートにおける「学校は保護者の願いに応えた教育を行っていると思われませんか」の肯定的評価	85%	94.0%	117.5%	A	・学校便りは、すべてで保護者に配信している。地域への回覧も保護者に依頼している。発行ができていない月がある。毎月発行となるよう今後取り組んでいく。 ・「学校は保護者の願いに応えた教育を行っていると思われませんか」のアンケートに対して肯定的評価は94%であった。	・定期的な発行を行い、学校の取組や児童のがんばる様子を保護者に発信していく。 ・学年便り等で児童の具体的な姿を発信したり、学級懇談会でも学校の取組や児童のがんばり等を伝えたりして、理解を得られるよう日々の教育活動を進めていく。保護者の思いにも寄り添いながら日々の教育活動を丁寧に行っていく。	○			・発信することで学校の取組を「見える化」することに今後も取り組んでほしい。 ・取組の結果が高い満足度につながっている。	
	信頼される学校づくり	○学校経営会議を核としたベクトルを揃えた取組実施 ○各部会(研究推進部、生徒指導部、保健体育部)における進捗管理とPDCAサイクルの活用による改善策の検討実施 ○担任者会における教職員の交流による取組の円滑な遂行 ○学校経営会議、三部会等を活用、教員の業務改善案を取り入れた業務改善の推進	○「1年のうち1月における時間外在校等時間が45時間を超える月数6月以内」の職員の割合	100%	84.6%	84.6%	B	・時間外在校等時間が45時間を超える職員が、4月4名、5月2名、6月3名、7・9月1名である。時間外在校時間数については、少しずつではあるが減少傾向にある。教職員一人一人の体調や業務内容等を見ながら改善を図っていかねばならない。 ・行事や研修等と重なったりして、学校経営会議、担任者会等の日時設定を変更したり時間の確保が難しかったりする状況がある。	・主任層が中心となり、早め早めに取り組んだり、互いに相談したりしながら業務にあたり続ける雰囲気も継続している。今後も継承していきたい。 ・保健衛生委員会等、教職員の状況を互いに把握したり改善できることはないかと考えたりして、組織力の向上にも取り組んでいく。 ・行事等を再確認しながら会議等の時間が確保できるよう努める。	○			・教職員が元気に児童と向き合うことができる環境を引き続きつくりたい。 ・働き方改革の推進に向けて、共に好事例を共有していきたい。	

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。